

ORE 2016 TOKYO

古宇田道生

*略歴

1999年 日大松戸歯学部卒業

有床義歯補綴学講座入局

2005年 こうた歯科クリニック開業

2009年 surgical basic course インストラクター

Osseointegration Study Club of Japan 会員

日本顎咬合学会会員

アメリカ歯周病学会会員

*抄録

Simultaneous approach にて行った咬合再構成

近年、インプラント治療の普及に従って、インプラント処置に伴う外科手術に用いる材料も多種多様となっている。こういった最新の情報を得て、多くの選択肢を持っておくという事は、治療を円滑に進めるにあたり素晴らしいアドバンテージとなる。

また、全顎的な症例の場合、患者のほとんどができる限り少ない外科処置の回数の治療計画を熱望することが多く、その希望を叶えるためには、術者の技術の向上が欠かせない。

今回のケースは、不良補綴物等の存在により咬合崩壊し、それに伴って咬合性外傷により進行した骨欠損が認められた患者に対して、自己血由来フィブリンブロックを用いて骨造成と同時にインプラント手術を行い、咬合再構成を目指した全顎的な症例を提示しご意見をいただければと考える。